

# がんばれ、三年生！

いよいよ明日が県立高校一次選抜です。三年生の多くは、第一希望の公立高校を受けます。私立の併願試験を経験しているとは言え、やはり本命の高校の受検となると、緊張は私立併願を受けた時以上のものだと思います。そんな三年生に、明日の一次選抜に向けて二つの言葉を贈ります。

「隣の芝生は青い」

高校に行くといや、その前だから、電車に乗った時や駅で降りた時ですね。同じ高校を受ける他校の中学生が必ず目に入ります。「あの子、賢そうだなあ」「あの学校の生徒たち、自信ありそうだなあ」などと、ついつい周りにいる生徒が自分よりも秀でているように見えてしまいます。

大丈夫です！他校の生徒たちも北中生を見て同じことを思っていますから。これが「隣の芝生は青い」ということです。つまり、自分の家には素敵な芝生があるのに、相手の芝生を見ると、自分の芝生よりも青々としているように見えるということです。

中には、緊張や不安をごまかすために、同じ学校の者同士が集まって、はしゃいだりふざけ合ったりする生徒がいるかもしれません。そういう姿を見た時は、「あの子たちも緊張しているんだ」「不安を感じているんだ」と思えばよいのです。そして、自分たちがそうならないように覚えておいてほしい言葉が次です。

「泰然自若」

これは、自分らしさを見失うことなく、どんなことがあっても慌てず冷静な様子を意味します。簡単に言うと、落ち着いていなさいということです。

しかし、「周りに惑わされず、自信もちなさい」と言っているのはありません。以前書きましたが、今年度、中学校の職員の引率が不要になった理由を意識し、「自分が取るべき態度を考えなさい」ということです。つまり、今の自分たちが置かれている状況が理解でき、それにふさわしい行動がとれること、そういう意味の「泰然自若」でいるべきです。

明日の一次選抜の朝、中学校の職員の姿が高校にあると、その学校の生徒たちは、自然とその周りに集まります。それが「密」を生み出すことになります。さらに、私語が始まれば、感染の危険性は一層高くなります。したがって、高校側は「中学校の職員の引率は不要」という指示を出しているのです。

これだけ理解できれば、自分がどのような姿で受験すればよいかはわかりますよね。あなたの学力や人間性が試験や面接で見られるだけではなく、感染予防に対する中学校の普段の取り組みが見られると思うべきです。

さあ、今日は早めに休んで、明日は早めに起床しましょう。そこから入試はスタートですよ。がんばれ、三年生！（三月二日記）